

<筑波大学附属病院・婦人周産期グループで行われている介入を伴わない後方視的観察研究>

患者様へ

このコーナーには当診療グループで行われている多施設共同の「介入を伴わない後方視的観察研究」が列挙されています。「介入を伴わない後方視的観察研究」とは、既に治療が行われた患者様の診療内容についてカルテ(診療録)から調査し、カルテに記載されている範囲内で分かる最新の患者様の健康状態などと照らし合わせて、これまで行われた治療の問題点を探り出し、その解決法を研究したり、新しい治療体系を構築するなどの研究を行うものです。多くの施設が同じ目的で情報を収集、集積する事により正確な研究結果を導きだせる可能性が高まります。当診療グループで行われるこのような観察研究では、患者様の個人情報を他施設に送る場合には匿名化を行っており、ご氏名やご住所など個人を特定できる情報は病院外には提供いたしておりません。

このような観察研究の対象となる患者様の中には既に治療や外来通院期間を終えられていたり、転居などで当院には通院していらっしゃらなかったり、またご不幸な結果を迎えてしまった患者様も含まれ、研究へのカルテの情報の提供につき、患者様1人、1人に説明しご同意を得る事は現実的には不可能です。

そこで、このコーナーのような形で研究内容を公開しております。もし、ご自身が研究の対象者に該当する可能性があり、研究への診療情報の調査を行ってほしくないなどのご意志や苦情等がございましたら、研究項目毎に「保有する個人情報の問い合わせ・苦情等の連絡先」が記載されておりますのでお問い合わせください。

研究課題名

当院における再発婦人科がんに対する治療法と予後および再発のリスク因子の調査研究

研究の意義・目的

婦人科悪性腫瘍に対する治療法は時代と共に変遷し、多くの綿密な臨床試験の結果を受けて主な3臓器原発癌(子宮頸がん、子宮体がん、卵巣がん)の初回治療については質の高い研究結果に基づく標準治療法がガイドラインに示されています。一方で再発婦人科悪性腫瘍では質の高い研究が少なく標準治療はほとんど確立されていないと言わざるを得ません。このため、個々の施設が学会発表や単施設でのデータを論文化しこれらを参考としてこの治療が行われているのが現状です。本研究では、信頼性が高い研究結果がない再発婦人科がん患者の治療法を後方視的に検討しその結果を明らかにして今後の治療方針の策定や質の高い臨床研究を行う際の資料とする事を目的としています。

研究対象者

1976年5月1日～2017年12月31日に初回治療を行った婦人科がんの患者さん

研究期間

倫理審査委員会承認後～2022年12月31日まで

研究の方法

再発を来した患者さんと再発がなかった患者さんのデータと比較し、原発臓器、組織型、治療法、年齢など臨床病理学的情報を解析して有効な治療方法を模索します。情報の収集は診療録(カルテ)にある範囲内として本研究のために新たに情報や検体を収集する事を行いません。皆様のカルテを詳細に検討させて頂く過程で、広く本邦や世界の医師、医療関係者に知って頂く事でこれからの患者様の治療に有益となる情報が付随的に得られた場合には、遅滞なく学会発表や論文化し、治療に役立てて頂く事とします。なお、このような発表には個人を特定できる情報は一切含みません。

研究に使用する試料・情報

診療録(カルテ)に記載されている診療情報および検査データ

研究責任者

筑波大学医学医療系 臨床医学域 婦人・周産期グループ

教授 佐藤 豊実

本研究への参加を希望されない場合

患者さんやご家族(ご遺族)が本研究への参加を希望されず、試料・情報の利用又は提供の停止を希望される場合は、下記の問い合わせ先へご連絡ください。すでに研究結果が公表されている場合など、ご希望に添えない場合もございます。

問い合わせ連絡先

筑波大学附属病院：〒305-8576 茨城県つくば市天久保 2-1-1

所属・担当者名：産婦人科 佐藤豊実

TEL:029-853-3073 FAX:029-853-3072 (平日 9～17時)